

初段審査のポイント

受審者名 ()

審査のポイント

- ・名前を呼ばれたら、はっきりと返事をする。
 - ・受けは受審者と同レベルの者とする。
 - ・審査の前後に礼をきちっと行う。通例、正面→先生→互い。互い→先生→正面。または先生の指示に従う。
 - ・間違えても声を出さず、技をやり直す。
 - ・審査の間は声を出さない。許可のない発言はしない。
 - ・受けは投げられていないのに勝手に受けを取らない。
 - ・師範・審査員の指示する「技」を左・右、表・裏、「やめ」がかかるまで継続して行う。
- (師範によっては、技量をみるために、上位の技を出題することがある。)

共通する技のポイント

- ・技の表と裏をはっきりと区別できているか。
- ・姿勢よく技を行っているか。体は常に垂直に。

個々の技のポイント

	技	審査のポイント	確認
立技	諸手取り呼吸法 表・裏	表捌き・裏捌きをしっかり表現する。	
座技	横面打ち一教 表・裏	「腕抑え」を体現。座り極めは跪座で。	
	肩取り正面打ち二教 表・裏	・「小手回し」「小手捻り」「手首抑え」を体現。	
	肩取り正面打ち三教 表・裏	・立ち極め・座り極めができているか。	
	肩取り正面打ち四教 表・裏	・肩を掴む手、または打ち手を捌くのと通りの方法あり。	
	横面打ち五教 表・裏	・座技なので動き回らず上下方向の動きで技を行っているか。	
	横面打ち入身投げ	「腕伸ばし」を体現。腕の掴み、座り極めができているか。	
	正面打ち小手返し	・裏側面入身捌きができているか。投げはその場投げ。	
立技	突き二教	・極めを行う場合、二教座り極めができているか。	
	後ろ両手首取り二教	・突きの捌きができているか。	
	後ろ両手首取り三教	表の捌きでは、ちゃんとした間合いが取れているか	
	後ろ両手首取り四教	・後ろ両手取りの捌きと崩しができているか。	
	後ろ両手首取り入身投げ	・真中で床までの崩しができているか。	
	後ろ両手首取り四方投げ	・動的スタート、静的スタートがともに出来るか。先生指示。	
	後ろ両手首取り小手返し	・先手を捌く方法と後手を捌く方法の二種類あり	
	後ろ両手首取り回転投げ	・座り極めがきちっとできているか。	
	正面打ち五教	・投げだけか、極めまではかは、師範の指示に従う。	
	横面打ち五教	・きちっと下方へ崩しができているか。	
半身半立	逆半身片手取り回転投げ	・表投げ・裏投げができているか。	
	両手取り回転投げ	・内回転と外回転の捌きができているか。	
	逆半身片手取り四方投げ 表・裏	・きちっと下方へ崩しができているか。	
	両手取り四方投げ 表・裏	・表は前膝からでる。	
立技	両手取り天地投げ 表・裏	・表は後足から、裏は前足から立ち上がって技を行う。	
	突き回転投げ	・天地の切り分け、天の手は内から切り上げているか	
	突き入身投げ	・内回転と外回転の捌き、下方へ崩しができているか。	
武器取り	短刀取り三種		
立技	腰投げ二種	突き腕拉ぎ・小手返し・入身投げ、正面打ち小手返し等	
自由技	片手取り、両手取り、諸手取り、正面打ち、横面打ち、突き、後ろ両手首取りの中で、指定された二つの技を五種実施	片手取り、正面打ち、両手取り、後ろ両手取り	
受身	受身の習熟度	・審査技となっていない呼吸投げ等の投げ技で構成する。	
座技	座技呼吸法	・ただし、技を失念した場合は、基本投げ技で「入身投げ」「小手返し」「四方投げ」の三種に「回転投げ」「呼吸投げ」を加えると五種。	
		・呼吸投げ、四方投げ、小手返しの受身が十分とれるか	
		・極めでは跪座で、両足が臀部の下にきちっと収まっているか	